

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立小中一貫校芦刈観瀾校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査等の結果において7割程度の学年・教科で伸びが見られたが、依然として課題が残った。授業力向上と学習規律の定着により、学力向上を図る。 小中一貫教育については、校内研の充実により小中の協力体制が整った。小中合同の行事や活動、9年間を見通したの学びの両面から小中一貫教育の充実を図ることができ、保護者や地域の理解も得られた。 いじめの早期発見、早期対応については、児童生徒に寄り添った教育相談や問題行動等に対する生徒指導力の向上を図る。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成 ～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 授業力 特別支援教育や教育相談 生徒指導力

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けたわかりやすい授業の実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修などにより取組の推進を図る。 ・随時、進捗状況などを確認しながら、確実な履行を進め、達成者を増やしていく。							学びプロジェクト
	○学習規律の確立	○児童生徒のアンケート「よい姿勢で授業を受けている」「授業開始時刻前に席に着いている」の達成率を、年度当初より向上させる。	・「学びの7本柱(学習規律重点項目)」を児童生徒に配付・確認し、継続した指導を粘り強く行う。 ・毎学期3回ずつ(年間9回)、「学びの7本柱」について、児童生徒が自己評価する場を設定し、改善を図る。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童生徒の規範意識や思いやる心に関する質問で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。	・友達の良いところやしてもらってうれしかったことを書いて掲示する「ほかほかの木」に取り組み。 ・年間計画に沿った道徳教育の実践に取り組むとともに、教育活動における心の教育の充実を職員が意識する。 ・人権・同和教育や平和学習を「いじめ防止・心を考える日」に合わせて全校で取り組む。							生活プロジェクト
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「何かあった時に学校に相談しやすい」と感じる児童生徒の割合を80%以上にする。 ○「いじめに対し、組織的に対応できている」と感じる職員の割合を90%以上にする。	・定期的な生活アンケートや教育相談などを行い、気になる児童生徒については職員間で情報共有を行う。 ・毎月10日の「いじめ防止・心を考える日」に合わせて、朝の時間に『いじめゼロ宣言』の読み上げ、エンカウンターなどの活動を取り入れる。 ・職員研修やいじめ対策委員会を設定し、組織的にいじめ防止に取り組む。							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのようなよところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。 ●「①将来の夢や目標を持っている」「②肯定的な回答をした児童生徒の割合を80%以上にする。」	・エンカウンターを計画的に取り組む。 ・地域の方を招き、各学年の実態や学習に合わせて仕事についての話をさせていただく時間をとる。 ・進路学習を系統立てて計画し、各学年で充実させる。							
	○小・中部部がともに高め合い、進んで行動できる児童生徒の育成	・行事や活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、更なる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を8割以上にする。	・異学年交流の実施と振り返りを行う。 ・主要な行事の前に意欲を高める活動を行い、活動への意欲を高め、活動後にはその振り返りを行う。							
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・「健康に食事は大切である」児童生徒の割合を85%以上にする。 ・家庭教育指針で「朝ご飯をしっかり食べる」の項目を年度当初より向上させる。	・全学年において、年1回以上栄養教諭が参画した食育の授業を行い、食への意識の向上を図る。 ・家庭教育指針を全学年で年3回行い、結果をその後の指導に反映させる。 ・「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。							元気プロジェクト
	○運動習慣の改善	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒、小学校60%以上、中学校80%以上にする。	・家庭教育指針を全学年で年3回行い、結果をその後の指導に反映させる。 ・委員会活動で運動を行うイベントを開催する。 ・ボールの貸し出しを行い、休み時間に運動を行う機会を増やす。							
	○小・中部部がともに高め合い、進んで行動できる児童生徒の育成	○行事や活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、更なる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を80%以上にする。	・異学年交流の実施と振り返りを行う。 ・主要な行事の前に意欲を高める活動を行い、活動への意欲を高め、活動後にはその振り返りを行う。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●昨年度の時間外勤務時間の平均を5ポイント下回る。	●委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●昨年度の時間外勤務時間の平均を5ポイント下回る。	・定時退勤日と部活動休業日の設定 ・長期休業中の年休取得促進 ・業務記録を把握し、意識の向上と業務の効率化に取り組む。							教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の充実・活性化	○プロジェクト部会の活性化や校内研究の充実を中心とした、小中一貫教育推進体制の充実	○「小中一貫による9年間の教育活動が充実している」と感じている保護者の割合を80%以上にする。 ○「小中交流授業や小中一貫の取組が充実している」と感じる職員の割合を90%以上にする。	・プロジェクトごとに重点取組事項を設定する。 ・小中教職員相互の授業協力体制の整備と小中交流授業の実施する。 ・学校だよりや学校HP等による情報発信する。							副校長
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上したとを感じる教員の割合を80%以上にする。	・特別支援に関する研修会を計画的に実施する。 ・ケース会議や情報共有の場を設定する。							特別支援コーディネーター (小・中)
○コミュニティ・スクールの推進	○地域との交流や地域を生かした体験学習の充実	○「地域との交流や体験学習に積極的に参加している」と感じている児童生徒の割合を80%以上にする。 ○「学校の教育活動は地域との連携がなされている」と感じている保護者・職員の割合を80%以上にする。	・生活科・総合的な学習の時間で、地域(ひと・もの・こと)を学ぶ場を設定する。 ・地域との連携・交流を生かした活動の設定と工夫した活動を行う。 ・学校だよりや学校HP等による地域連携に関する情報発信を定期的に行う。							副校長

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------